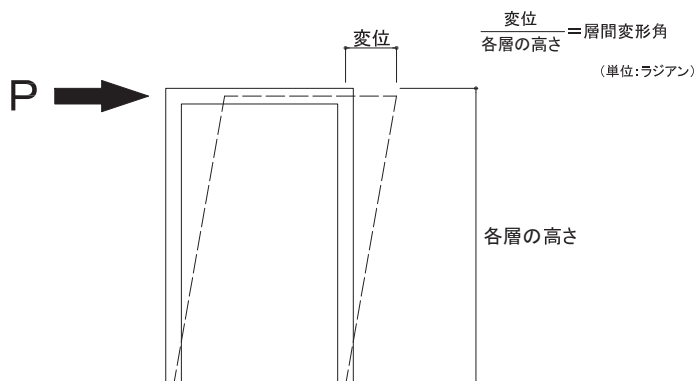


鉄骨下地組みの注意点（非耐火構造）

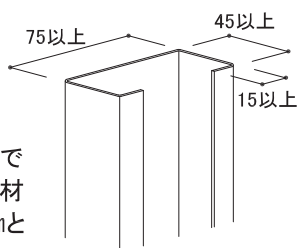
■基本事項

- 建物の層間変形角は1/120rad以下で設計してください。
（鉄骨造の層間変形角は原則として1/200radを超えないことと定められていますが、窯業系サイディングで仕上げた外壁構造は、1/120radまで緩和できます）
- COOLを直接柱や梁に取り付ける事は避け、胴縁を使用して胴縁にモエンを取り付けてください。



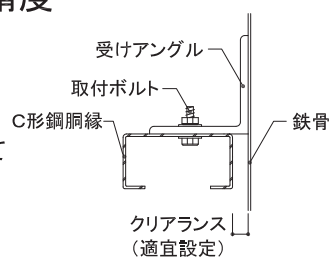
■鉄骨下地胴縁の形状寸法

- C形鋼胴縁の厚みは、1.6～2.3mmのものを使用してください。
- 断面寸法は75×45×15mm以上を使用してください。
- 準耐火構造および防火構造で鉛直荷重を負担する構造部材のC形鋼胴縁の厚みは2.3mmとしてください。



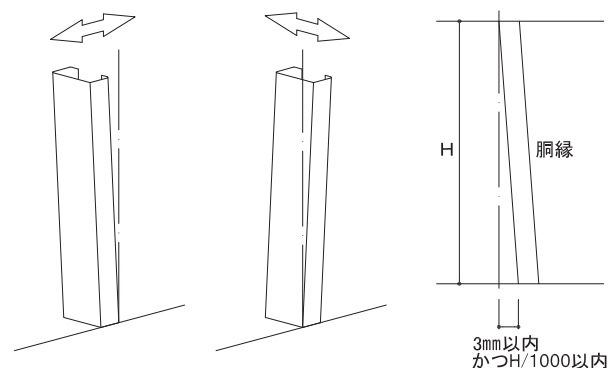
■下地組み寸法と精度

- C形鋼胴縁は受けアングル（ねこ）又は受けプレート（柱・梁に溶接し、受けアングルにボルト留めしてください。
（柱・梁に直接溶接することは避けてください）



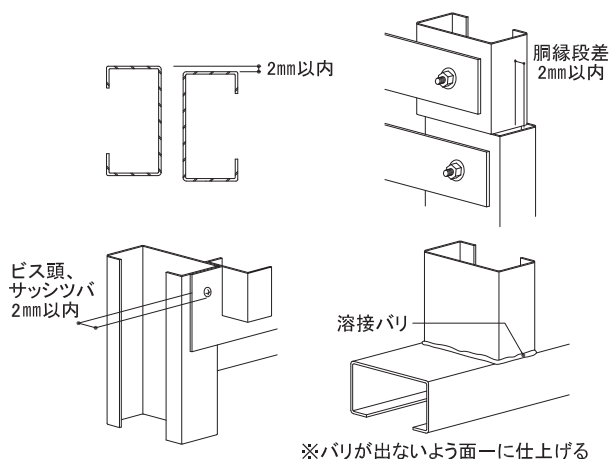
■C形鋼胴縁の立ち

- 3mm以内かつH/1000以内としてください。



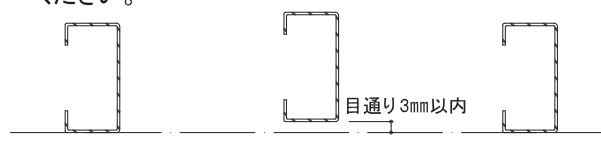
■不陸限界

- 下地ジョイント部のズレと、溶接部のバリ、ビス頭などによる不陸は、2mm以内としてください。



■C形鋼胴縁の目通り

- C形鋼胴縁の立ちや通りのズレは、3mm以内としてください。



■C形鋼へのビス留め位置

- C形鋼胴縁へ留付金具を留め付けるビスは、がたつき防止のため、C形鋼端部より10mm程度以上離れた位置に留め付けてください。

